

2011 年

4 月 17 日（日曜日） 丹後ちりめんを紡ぐたくさんの絆 - 京丹後ちりめん祭 -

本日は、第 61 回の京丹後ちりめん祭に大変多くの方々にご来場いただき、本当にありがとうございます。

まず、このたびの東日本大震災に被災された大変多くの方々に心から哀悼の誠を捧げますとともに、深くお見舞いを申し上げます。今、日本中や海外から支援の輪がますます拡がり、日本が改めて一つになろうとしているように感じています。私たちの丹後ちりめんも、まだまだ厳しい状況が続いておりますが、これからの新しい時代におけるちりめんの再生と発展に向けて、今こそ地域をあげて関係者、住民の力を合わせて一つになって努力を捧げていくことが重要であります。

今日は、きもの文化の振興に頑張っておられる岡山の美作市から参加をいただいていますし、また、絹織物としての仲間、羽二重の産地、福島のカワノ町からもブースを出していただいています。川ノ町は東日本大震災の被災地で、深刻な困難の中にあって懸命に復旧・復興への努力を捧げ続けておられ、今後とも、全国の絹織物の仲間はじめ国民の皆さんとともに復興支援への想いを寄せ合わせていくとともに、ひいては、このお祭りを、丹後ちりめんを巡って地域や人の様々な絆に思いを寄せる機会にもしていきたい。

丹後ちりめんを巡っては、ちりめんづくりの様々な過程でいろんな人たちが役割を分担し、想いを込めて、力をつないで、絆をつむいで、ちりめんの一つ一つの製作へと支えていただいています。今日は、そんな丹後ちりめん編みこまれた人の絆、込める願いの絆を考え、想いを一つに寄せ合っていくような機会になればと思いますし、同時に、昨年は、25 の市区町村が参加しシルクのまちづくり市区町村連絡協議会が発足しましたが、絹を巡り全国の 25 の地域はじめ関係地域が相互に交流し支えあう絆についても改めて大切に、力を寄せ合っていく一層の機縁になればと願っています。そして、絹と織物の限らない可能性の更なる一端々々も再発見され、耕され、丹後や全国産地の将来の新しい発展、ますますの繁栄につながっていきますよう、心から念願しています。